

沖縄県国頭村奥方言の名詞の格

狩俣繁久・島袋幸子（琉球大学）

1 はじめに

国頭村奥集落では、名詞の格体系の概要を把握するための調査を6月3日～4日、7月2日～3日、9月23日～25日、10月8日～9日、12月24日～26日に実施した。名詞の格体系の概要を把握するための調査と民俗語彙の調査臨地調査は、主として狩俣繁久と狩俣幸子が行なった。

2 格ととりたて

名詞は、文のなかでの構文論的な機能や構文論的な意味をあらわしわけけるために、さまざまに形をかえます。名詞の語形変化のことを「曲用」という。琉球語の名詞は、日本語の名詞とおなじく助詞^{注1)}とよばれる接辞をくっつけて、それを取りかえることによって形をかえる。

2.1. 格

名詞は、文のなかで構文論的な機能をはたしながら、自らのあらわすことがらが他の単語のあらわすことがらとのあいだにあるさまざまな関係をあらわしたり、現実にある同類のものごとに対してどのような関係にあるかを話し手の立場からあらわしたりする。名詞が文中の他の単語に対することがら上の関係をあらわす文法的なカテゴリーを「格」という^{注2)}。格をあらわすためのさまざまな文法的な形である「格の形」は、名詞のうしろに格助詞をくっつけてあらわす。格助詞のつかない名詞の形も、ほかの格の形と対立しながら、格の体系のメンバーとして、文のなかでの他の単語に対することがら上の関係をあらわしたり、文のなかでの機能をあらわしたりする。

国頭村奥方言には、ga（が）、nu（の）、ne:（に）、ni（に）、ne:ti（に）、Nkai（へ、に）、dzi（で）、ei:（で）、hara（から）、Nta:na:（まで）、ga:de:（まで）、tu（と）、jo:kaN（より）の格助詞を含む格形式と格助詞を含まないハダカ格の形式がある。

¹ 助詞は、名詞や動詞、形容詞などの品詞とはことなり、助詞単独で文を直接に構成する単位となることができず、名詞や動詞、形容詞の文法的な形の構成要素となってはたらく形態素である。

² 平凡社世界大百科事典の「格」の項にはつぎのように記述されている。

「名詞・代名詞などの、文中における他の語との関係。それがどのように表わされるかは言語の構造によって異なる。日本語では、名詞に格による変化がなく、＜ガ、ノ、ニ、ヲ、デ、ト、ヘ、カラ、ヨリ＞などの、いわゆる格助詞で＜格＞が表示される」（三根谷徹 1981）。

2.2. とりたて

文のなかにあらわされているものごとが、現実にある同類のものごとに対してどのような関係にあるかを話し手の立場からあらわしわかる文法的なカテゴリーを「とりたて」という。名詞も「とりたて助詞」をともなってそこに表現されているできごとが現実にある同類のものごとに対してどのような関係にあるかを話し手のたちばかりからあらわしわかる。名詞のばあい、連用的な格が「とりたての形」を分化させている。具体的にいうと、次の例文がしめすように名詞の格の形のうしろにとりたて助詞をつけてあらわれる。とりたて助詞は、格助詞のさらにうしろにくっつけることができる。名詞に格助詞がついているとき、係助詞は、その格助詞のうしろにつける。

【表 1】意味面からみた格

∅	対格／主格／属格	ACC／NOM／GEN	accusative／nominative／genitive
ga	主格／属格	NOM／GEN	nominative／genitive
nu	主格／属格	NOM／GEN	nominative／genitive
ne:	与格 1	DAT1	dative
ni	与格 2	DAT2	dative
ne:ti	与格 3	DAT3	dative
Nkai	方向格	ALL	allative
dzi	場所格	LOC	location
ei:	具格	INS	instrumental
hara	奪格	ABL	ablative
Nta:na :	目標格 1	LMT1	limitative
ga:de:	目標格 2	LMT2	limitative
tu	共格	COM	comitative
jo:kaN	対比	CMP	comparative

2. ハダカ格

奥方言では格助詞「を」に対応する助詞がなく、他動詞を述語にもつ文の《直接対象》を表す対格専用の形式はなく、ハダカ格の名詞が表す。なお、《直接対象》を表すのはハダカ格の名詞だけである。

1. ?aN midzi-ja numuna. numiba-ja huN midzi numi.

(あの 水は 飲むな。飲むなら この 水を 飲め。)

2. dʒiɾo:-ni jamme:-nu kusatui eimija.
(次郎に 庭の 草取りを させよう。)
3. dʒiɾo:-ja bo:-ei saburo: p'icidaN.
(次郎は 棒で 三郎を たたいた。)
4. dʒiɾo:-ga duge:ti para-Nkai teiburu ʔutta:N.
(次郎が 転んで 柱に 頭を 打った。)
5. nu: ho:ruNgaja:.
(何を 買おうかな。)
6. kadzuko muN-tu junu kutsu hanako-ne:-N ho:ti ta:ha.
(和子の ものと 同じ 靴を 花子にも 買って やろう。)
7. taro:-ja ʔuttu-ne: kwa:ei wahiti ta:taN.
(太郎は 弟に 菓子を 分けて やった。)
8. parito:ru p'i:-ja saburo:-ja ʔumi:-dzi ʔiru kwa:suN.
(晴れた 日は 三郎は 海で 魚を 釣る。)
9. kinu: mebaru mi:tei kwa:teaN.
(昨日 メバルを 三匹 釣った。)
10. dʒiɾo:-ja habi-ei: koinobori hikute:N.
(次郎は 紙で 鯉のぼりを 作ってある。)
11. ʔisa-nu t'a:t'aru kusui numiba no:ruNdo:.
(医者の くれた 薬を 飲めば 治るよ。)
12. hanako:-ja ʔaNma:-ne:ti munu kamahattaN
(花子は 母に ご飯を 食べさせられた。)
食べさせてもらったの訳
13. ʔokka:-ga dziN ta:taN.
(母が 金を 呉れた。取らした。)
「母からお金をもらった」の質問に
14. waN:-ja su:ta:-ga dziN ta:taN.
(私は 父が 金を 呉れた。取らした?)
「母からお金をもらった」の質問に
15. dʒiɾo:-Nkai jamme:-nu kusatui eimija.
(次郎に 庭の 草取りを させよう。)
16. ʔuNme:-ga teiburu-ne: sadzi kutte:N.
(祖父が 頭に タオルを しばっている。)
17. waN:-ja kinu:-ja eiNbuN jumaNtaN.
(俺は 昨日は 新聞を 読まなかった。)
18. papp'a:-ja nibaNdza-ne: terebe mi:takuNdo:.
(祖母は 二番座で テレビを 見ているよ。)
19. dzikaN-nu ʔaihutu godzi-ga:de: terebe mijaja:.
(時間が あるから 五時まで テレビを 見ようね。)
20. ʔuNme:-ja hitumiti-hara jama-Nkai mimigui tuiga ʔidaN.
(祖父は 朝から 山に キノコを 取りに 行った。)

21. dziro: huN nimutei basutei-ga:de: hatamiti ?idzi turahaNna:.

(次郎、この 荷物を バス停まで かついで いって くないか。)

22. dziro: huN nimutei basutei-ga:de: hatamiti ?idzi turahaNna:.

(次郎、この 荷物を バス停まで かついで いって くないか。)

jumibu:suN (弾ける)、jumibu:suN (読める) などの能力可能をあらわす可能動詞が述語になって、ハダカ格の名詞がその《能力の対象》をあらわす例が確認できた。

23. taro:-ja eigo-nu hoN jumibu:suN.

(太郎は 英語の 本が 読める。)

24. hanako-ja mukaei-hara saNeiN pikibusuN.

(花子は 昔から 三線が 弾ける。)

ハダカ格の名詞が主格として主語になって動作の《持ち主》を表す例が確認できた。

25. a: ?ami putuhiNdo:.

(あ、雨が 降ってきたよ。)

ハダカ格の名詞が属格として後続の名詞を限定、修飾する例が確認できた。一人称、二人称、三人称の代名詞や、人をあらわす名詞がある。

26. wa: kutsu-ja da:-ne: ?aiNgaja.

(おれの 靴は どこに ある。)

27. was: odzi:-ja saki-N tabaku-N numaNdo:.

(うちの 祖父は 酒も 煙草も のまないよ。)

28. huN kasa-ja wa: muN daNdo:.

(その 傘は おれの ものだよ。)

29. ?ura bo:si-ja dziruga.

(おまえの 帽子は どれだ。)

30. huN huroeiki-ja ?ura muN daNna:.

(その 風呂敷は おまえの ものか。)

31. kadzuko muN-tu junu kutsu hanako-ne:-N ho:ti ta:ha.

(和子の ものと 同じ 靴を 花子にも 買って やろう。)

32. huN kumimuN-ja taro: muN daNna:.

(その 履物は 太郎の ものか。)

33. huri-ja ?uttu muN jaru padzi

(それは 妹の 物 だろう。)

奥方言のハダカ格の空間名詞が移動動詞と組み合わさって《移動する空間》を表す例が確認できた。

34. juru mitci ?akkuru ba:-ja pabu-ne: ki: hikirijo:.

(夜 道を 歩く ときは ハブに 気を つけろよ。)

kinu: (昨日)、asa: (明日) などの deictic な性質をおびたハダカ格の時間名詞が動作や変化の行われる《時間》を表す例が確認できた。

35. ʔaNma:-ja ʔasa: to:kjo:-Nkai kwa:-ni ʔitte:ga ʔikuNdo:.

(母が 明日 東京に 子に 会いに 行くよ。)

36. kinu: mebaru mi:tei kwa:teaN.

(昨日 メバルを 三匹 釣った。)

ハダカ格の数量名詞が他動詞と組み合わさって、述語動詞の表す動き客体の数量を限定する例が確認できた。

37. kinu: mebaru mi:tei kwa:teaN.

(昨日 メバルを 三匹 釣った。)

38. wanu-ja ja:tei kwa:taN.

(おれは 八匹 釣った。)

現代日本語で「～に なる」「～に する」という連語には「に格」がつかわれるが、奥方言では、ハダカ格の名詞が動詞 naiN(なる)と組み合わさって使われる例が確認できた。

39. uttu-ja hudu: teu:ga-nu seNse: nataN.

(妹は 去年 中学の 先生(に) なった。)

慣用句

40. ʔaNma:-N kadze hita:N.

(母も 風邪を ひいた。)

3. ga 格

ga 格の人名詞が主語になって動作や変化の主体、質や特性など、属性のもちぬしなどを表す例が確認できた。

41. ko:teo:eeNci:-ga basu-hara ʔuriti teaN.

(校長先生が バスから おりて きた。)

42. dziro:-ga duge:ti para-Nkai teiburu ʔutta:N.

(次郎が 転んで 柱に 頭を 打った。)

43. ʔuNme:-ga teiburu-ne: sadzi kutte:N.

(祖父が 頭に タオルを しばっている。)

44. waN-ja su:ta:-ga dziN ta:taN.

(私は 父が 金を 呉れた。取らした?) 「父からお金をもらった」の質問に

45. waN-ja ʔaNma:-ga dziN ta:taN.

(私は 母が 金を 呉れた。取らした?) 「母からお金をもらった」の質問に

46. ʔokka:-ga dziN ta:taN.

(母が 金を 呉れた。取らした?) 「母からお金をもらった」の質問に

47. kadzuko-nu udu-ga ja:ui-ne: pusatuN.
(かず子の 布団が やねに 干されている。)

48. ?aN kwa:-ga dzuNni-nu suramuN.
(あの むすめが ほんとうの 美人だ。)

通常主語を言わないのがふつうの命令文に ga 格の人名詞が現れて動作主を明示的に指定する例が確認できた。

49. ura:-ga jakuba-Nkai ?idu:baja.
(おまえが 役場に 行け。)

ga 格の名詞が《評価の対象》を表す例が確認できた。

50. teNpura-du macina:. sacimi-du macina:. dziru-ga macijaNga
(天ぶらが いいか。刺身が いいか。 どれが いいの。)

人の体の部分を表す名詞に格助詞 ga が後接して主語になり、述語とあわさって、全体が述語になって、その部分のもちぬしの人が総主語になる例が確認できた。

51. hanako-ja teira-ga ?aNma-Nkai hikatu nito:N.
(花子は 顔が 母に よく 似ている。)

4. nu 格

奥方言の nu 格の名詞は主語になることも連体修飾語になることもできる。奥方言のばあい、ga 格の名詞だけでなく、nu 格の名詞も主語としてはたらく。これは現代日本語とは異なる幸喜方言の特徴だが、古典日本語と共通の特徴でもある。

奥方言の nu 格の名詞が主語になる例が確認できた。

52. kuruma-nu wattamikatsji tfa:tu, tamasu nugitaN.
(車が 飛び出して きたので、驚いた。)

53. ?aN jama-ne:ti jamasi-nu uiNdo:.
(あの 山に イノシシが 居るよ。)

54. tiN-hara su:sadzi-nu tuda:kuN.
(空を 白鷺が 飛んでいる。)

55. su:tui-nu tuda:kuN.
(白い鳥が 飛んでいる。)

56. hame:, ami-nu puipadzimitaN.
(あ、雨が 降り始めた。)

57. ma:uta-nu puha-hara ja:-N ?utci-Nkai ?ittciitt'ado:.
(猫が 外から 家の 中に 入ってきたよ。)

58. dzikaN-nu ?aihutu godzi-ga:de: terebi mijaja:.
(時間が あるから 五時まで テレビを 見ようね。)

奥方言の nu 格の名詞が連体修飾節の主語になる例を確認できた。

59. ami-nu pui ru p'i:-ja saburo:-ja ja:-ne: maNga-beN-du juda:kuru.

(雨の 降る 日は 三郎は 家で 漫画ばかり 読んでいる。)

60. isa-nu t'a:t'aru kusui numiba no:ruNdo:.

(医者の くれた 薬を 飲めば 治るよ。)

人の体の部分を表す名詞に格助詞 nu が後接して主語になり、述語とあわさって、全体が述語になって、その部分のもちぬしの人が総主語になる例を確認できた。

61. hanako-ja teija-nu ?aNma:-Nkai hikatu nito:N.

(花子は 顔が 母に よく 似ている。)

62. taro:-ja mi:-nu su:ta:-Nkai hikatu nito:N.

(太郎は 眼が 父に よく 似ている。)

63. taro:-ja mi:-nu su:ta:-ne: dziko: nito:N.

(太郎は 眼が 父に よく 似ている。)

nu 格の名詞が属格として後続の名詞を限定、修飾する例を確認できた。ハダカ格の名詞も連体修飾語として名詞を修飾することができるが、ハダカ格のばあい、1 人称、2 人称、の代名詞や親族名詞等の人名詞に限られるのに対して、nu 格の名詞は、制限が無く広く使用できるようである。

64. jakuba-Nkai huma-nu mitci-hara ?ikuci-du macido.

(役場に そこの 道を 行くのが いいよ。)

65. ?abunahatu mitci-nu suba-hara-ja ?akkuna.

(危ないから 道の 側は 歩くな。)

66. mitci-nu maNnaha-hara ?attci-ja naraNdo:

(道の 真ん中を 歩いては いけないよ。)

67. ?uimi-nu posuta:-ja ko:miNkwaN-nu paci:-ne: pate:taNdo:.

(祭りの ポスターは 公民館の 戸に 貼ってあったよ。)

68. posuta:-ja ko:miNkwaN-nu hubi-ne: pate:taNdo:.

(祭りの ポスターは 公民館の 壁に 貼ってあったよ。)

69. saki-ja suido:-nu midzi-ci:-ru hikuiru.

(酒は 水道の 水で 作るんだ。)

70. taro:-ja ?eigo-nu hoN jumibu:suN.

(太郎は 英語の 本が 読める。)

71. huN ciNbuN-ja kinu:-nu daru. su:N muN-ja huri daru.

(その 新聞は 昨日のだ。今日の ものは これだ。)

72. huN ciNbuN-ja kinu:-nu daru. su:N muN-ja huri daru.

(その 新聞は 昨日のだ。今日の ものは これだ。)

73. kadzuko-nu ʔudu-ga ja:ui-ne: pusatuN.
(かず子の 布団が やねに 干されている。)

74. dziro:-ja ʔuttu-nu saburo:-tu ʔo:taN.
(次郎は 弟の 三郎と 喧嘩した。)

75. cinugu-nu ba:-ja papp'a:-ga:deN udutaN.
(シヌグの ときは 祖母まで 踊った。)

76. waN-ja ʔirabutea:-nu namaei-du kamibusa:N
(俺は イラブチャーの 刺身が 食いたい。)

5. ne:格

ne: 格の空間名詞が aiN (有る)、uiN (居る) などの存在動詞とむすびついて人やものの存在する《ありか》を表す例が確認できた。

77. wa: kutsu-ja da:-ne: ʔaiNgaja.
(おれの 靴は どこに あるかなあ。)

78. kudzi-ga:de: taro:-tu komiNkwaN-ne: uitaNdo:.
(九時まで 太郎と 公民館に 居たよ。)

ne: 格の人名詞が授受動詞、使役動詞と組み合わさって授受や使役の《相手》を表す例が確認できた。

79. taro:-ja ʔuttu-ne: kwa:ei wahiti ta:taN.
(太郎は 弟に 菓子を 分けて やった。)

80. kadzuko muN-tu junu kutsu hanako--ne:-N ho:ti ta:ha.
(和子の ものと 同じ 靴を 花子にも 買って やろう。)

81. dziro:-ja ʔuNme:-ne: ʔabiNnadzitei nurata:N.
(次郎は 祖父に 喋るなって 叱られた。)

82. dziro:-ja gaNmaru-ei: ʔuNme:-ne: nura:taN.
(次郎は いたずらして 祖父に 叱られた。)

ne: 格の空間名詞が状況語になって動作の行われる《場所》を表す例が確認できた。

83. mit-ei-ne: eo:gakko:nu ko:teo:eeNeei-tu ʔita:taN.
(道で 小学校の 校長先生と 会った。)

84. papp'a:-ja nibaNdza-ne: terebi mi:takuNdo:.
(祖母は 二番座で テレビを 見ているよ。)

85. ʔami-nu pui ru p'i:-ja saburo:-ja ja:-ne: naNga-beN-du juda:kuru.
(雨の 降る 日は 三郎は 家で 漫画ばかり 読んでいる。)

86. jodzi-Nta:na basutei-ne: matto:ri.
(四時まで バス停で 待っている。)

くつつくところ

87. ʔuimi-nu posuta:-ja ko:miNkwaN-nu paɕi:-ne: pate:taNdo:.

(祭りの ポスターは 公民館の 戸に 貼ってあったよ。)

88. ma:uta-nu puha-hara ja:-N ʔutei:-ne: ʔitteitt'ado:.

(猫が 外から 家の 中に 入ってきたよ。)

89. ʔuNme:-ga teiburu-ne: sadzi kutte:N.

(祖父が 頭に タオルを しばっている。)

向けられる対象

90. juru mitɕi akkuru ba:-ja pabu-ne: ki: hikirijo:.

(夜 道を 歩く ときは ハブに 気を つけろよ。)

91. taro:-ja mi:-nu su:ta:-ne: dziko: nito:N.

(太郎は 眼が 父に よく 似ている。)

92. dziro:-ja ʔami-ne: ʔiNdziti ja:-Nkai ke:titto:N.

(次郎は 雨に 濡れて 家に 帰ってきている。)

93. kadzuko-nu ʔudu-ga ja:ui-ne: pusatuN.

(かず子の 布団が やねに 干されている。)

6. ni 格

ni 格の時間名詞が時間の状況語としてはたらいて、文のあらわす出来事の実現する時間を表す例が確認できた。

94. basu-ja p'i:-ni mine:-du ʔaiN-do:.

(バスは 一日に 三回 ある。)

95. hateigatsu-ni ke:ti huiNdo:.

(八月に 帰って 来るよ。)

ni 格の人名詞は、使役動詞とくみあわさって、使役の《相手》を表す例が確認できた。

96. dziro:-ni jamme:-nu kusatui ɕimija.

(次郎に 庭の 草取りを させよう。)

97. ʔaNma:-ja ʔasa: to:kjo:-Nkai kwa:-ni ʔitte:ga ʔikuNdo:.

(母が 明日 東京に 子に 会いに 行くよ。)

7. ne:ti 格

ne:ti 格の空間名詞が存在動詞 uiN (居る) と組み合わせさせて人が存在する《ありか》を表す例が確認できた。

98. ʔaN jama-ne:ti jamaci-nu uiNdo.

(あの 山に イノシシが 居るよ。)

ne:ti 格の人名詞が使役動詞や受身動詞とくみあわさって使役や受身の《相手》をあらわす例が確認できた。

99. hanako-ja ʔaNma:-ne:ti munu kamahattaN
(花子は 母に ご飯を 食べさせられた。) **食べさせてもらったの訳**

8. Nkai 格

奥方言の Nkai 格の空間名詞が方向性の移動動詞と組み合わせあって、《ゆくさき》を表す例が確認できた。

100. ʔaNma:-ja ʔasa: to:kjo:-Nkai kwa:-ni ʔitte:ga ʔikuNdo:.
(母が 明日 東京に 子に 会いに 行くよ。)
101. ʔuNme:-ja hitumiti-hara jama-Nkai mimigui tuiga ʔidaN.
(祖父は 朝から 山に キノコを 取りに 行った。)
102. dziro:-ja ʔami-ne: ʔiNdziti ja:-Nkai ke:titto:N.
(次郎は 雨に 濡れて 家に 帰ってきている。)
103. taro:-ja hudu-hara to:kjo:-Nkai ʔidoNdo:.
(太郎は 去年から 東京に 行っているよ。)
104. jakuba-Nkai-ja takuei:-ei ʔikuei-jo:kaN basu-ei ʔikueiru maei jaru.
(役場には タクシーで 行くより バスで 行くのが いい。)
105. jakuba-Nkai huma-hara ʔikueidu maeido:
(役場に ここを 行くのが いいよ。)
106. jakuba-Nkai huma-nu mitēi-hara ʔikueidu maeido:
(役場に ここの 道を 行くのが いいよ。)
107. pidu-Nkai eba ʔunu mitēi-hara ʔikuei maeija:
(辺戸に なら この 道を 行くのが いいね。)
108. ma:uta-nu puha-hara ja:-N utei-Nkai itteitt'ado:.
(猫が 外から 家の 中に 入ってきたよ。)
109. ʔura-ga jakuba-Nkai ʔidu:baja.
(おまえが 役場に 行け。)
110. ʔaNma:-ja mattea-Nkai ho:rimuN si:ga ʔida:N.
(母は 町に 買い物をして 行った。)
111. dziro:-ga dugeti para-Nkai teiburu ʔutta:N.
(次郎が 転んで 柱に 頭を 打った。)
- 基準格
112. hanako-ja teija-nu ʔaNma:-Nkai hikatu nito:N.
(花子は 顔が 母に よく 似ている。)
113. taro:-ja mi:-nu su:ta:-Nkai hikatu nito:N.
(太郎は 眼が 父に よく 似ている。)

奥方言の Nkai 格の人名詞が使役動詞や授受動詞と組み合わせあって、使役や授受の《相手》を表す例が確認できた。

114. dziro:-Nkai jamme:-nu kusatui eimija.

(次郎に 庭の 草取りを させよう。)

115. taro:-ja ?uttu:-Nkai kwa:ei wahiti ta:taN.

(太郎は 弟に 菓子を 分けて やった。)

9. dzi 格

dzi 格の空間名詞が状況語になって動作の行われる《場所》を表す例が確認できた。

116. parito:ru p'i:-ja saburo:-ja ?umi:-dzi ?iru kwa:suN.

(晴れた 日は 三郎は 海で 魚を 釣る。)

10. ei 格

117. jakuba-Nkai-ja takuei:-ei ?ikuei-jo:kaN basu-ei: ?ikuei-ru maei jaru.

(役場には タクシーで 行くより バスで 行くのが いい。)

118. dziro:-ja habi:-ei: koinobori hikute:N.

(次郎は 紙で 鯉のぼりを 作ってある。)

119. dziro:-ja bo:-ei saburo: p'icidaN.

(次郎は 棒で 三郎を たたいた。)

120. saki-ja suido:-nu midzi:-ei:-ru hikuiru.

(酒は 水道の 水で 作るんだ。)

121. to:pu-ja to:pumami-ei: hikuiNdo:.

(豆腐は 大豆で 作るんだよ。)

122. niseNeN:-ei: hurariNdo:

(二千元で 来れるよ。)

123. hanako-ja kinu:-hara jaNme:-ei: nitto:N.

(花子は 昨日から 病気で 寝ている。)

11. hara 格

奥方言の hara 格の空間名詞が方向性の移動動詞と組み合わせあって、《出発点》を表す例が確認できた。

124. nagu:-hara naha-Nta:na basuteiN-ja ?icita: suNga.

(名護から 那覇まで バス賃は いくら するか。)

125. ko:teo: eNei:-ga basu-hara ?uriti teaN.

(校長先生が バスから おりて きた。)

126. ma:uta-nu puha:-hara ja:-N ?utei-Nkai ?itt'eitt'ado:.

(猫が 外から 家の 中に 入ってきたよ。)

127. taro:-ja ?itei to:kjo:-hara ke:-ti huiNga.

(太郎は いつ 東京から 帰って くるの。)

奥方言の hara 格の人名詞が受身動詞と組み合わせあって、《受身の相手》を表す例が確認できた。

128. dziro:-ja ʔuNme:-hara ʔabija: suNna-dzitei ʔabijajaN.

(次郎は 祖父から 喋るなって 叱られた。)

129. dziro:-ja ʔuNme:-hara ʔabiNna dzitei nura:taN.

(次郎は 祖父から 喋るなって 叱られた。)

奥方言の hara 格の時間名詞が述語動詞の表す運動や状態の《開始時間》を表す例が確認できた。

130. ʔuNme:-ja hitumiti-hara jama-Nkai mimigui tuiga ʔidaN.

(祖父は 朝から 山に キノコを 取りに 行った。)

131. hanako:-ja mukaei-hara saŋciN pikibusaN.

(花子は 昔から 三線が 弾ける。)

132. hanako:-ja kinu:-hara jaNme:-ei nitto:N.

(花子は 昨日から 病気で 寝ている。)

133. taro:-ja hudu-hara to:kjo:-Nkai ʔidoNdo:.

(太郎は 去年から 東京に 行っている。)

原料

134. saki:-ja humi-hara-du hikuiru.

(酒は 米から 作るんだ。)

奥方言の hara 格の空間名詞が移動動詞と組み合わせあって《移動する空間》を表す例が確認できた。

135. jakuba-Nkai huma-hara ʔikuēi-du maēido:

(役場に ここを 行くのが いいよ。)

136. jakuba-Nkai huma-nu mitēi-hara ʔikuēi-du maēido:

(役場に この 道を 行くのが いいよ。)

137. abunahatu mitēi-nu suba-hara -ja ʔakkuna.

(危ないから 道の 側は 歩くな。)

138. mitēi-nu maNnaha-hara ʔattei:-ja manaraNdo:

(道の 真ん中を 歩いては いけないよ。)

139. pidu-Nkai eba ʔunu mitēi-hara ʔikuēi maēija:

(辺戸に なら この 道を 行くのが いいね。)

140. tiN-hara su:sadzi-nu tuda:kuN.

(空を 白い鷺が 飛んでいる。)

相手

141. huri-ja da:-hara ho:ti:.
(それは どこで 買ったの。)
142. huri-ja da: mateija-hara ho:ti:.
(それは どの 店で 買ったの。)
143. hunu k'iN-ja hune:da to:kjo:-hara niseNeNci ho:taN.
(その 服は この間 東京で 二千元で 買った。)

1 2. Nta:na 格まで格

144. nagu-hara naha-Nta:na basuteiN-ja ?icita: suNga.
(名護から 那覇まで バス賃は いくら するか。)
145. ?aN jaNkwa:-Nta:na: paibe:ku: ci:ja:ja:.
(あの 小屋まで 駆けっこ しようよ。)

奥方言の Nta:na 格の時間名詞が述語動詞の表す運動や状態の《終了時間》を表す例が確認できた。

146. jodzi-Nta:na basutei-ne: matto:ri.
(四時まで バス停で 待っている。)

1 3. ga:de:格

奥方言の ga:de:格の時間名詞が述語動詞の表す運動や状態の《終了時間》を表す例が確認できた。

147. dzikaN-nu ?aihutu godzi-ga:de: terebi mijaja:.
(時間が あるから 五時まで テレビを 見ようね。)
148. godzi--ga:de: taro:-tu ko:miNkwaN-ne: uitaNdo:.
(五時まで 太郎と 公民館に 居たよ。)
149. kudzi-ga:de: taro:-tu komiNkwaN-ne: uitaNdo:.
(九時まで 太郎と 公民館に 居たよ。)
150. dziro: huN nimutei basutei-ga:de: hatamiti ?idzi turahaNna:.
(次郎、この 荷物を バス停まで かついで いって くないか。)

1 4. tu 格

奥方言の tu 格の人名詞が相互動作を表す動詞と組み合わせさせて《相互動作の相手》を表す例が確認できた。

151. mitci-ne: co:gakko:nu ko:teo:ceNcei-tu ?ita:taN.
(道で 小学校の 校長先生と 会った。)
152. dziro:-ja ?uttu-nu saburo:-tu ?o:taN.
(次郎は 弟の 三郎と 喧嘩した。)

153. hanako-ja kadzuko-tu naha ?itahaN.
(花子は かず子と 仲(が) よい。))

奥方言の tu 格の人名詞と一緒に動作を行なう《仲間》を表す例が確認できた。

154. kudzi-ga:de: taro:-tu komiNkwaN-ne: uitaNdo:.
(九時まで 太郎と 公民館に 居たよ。)
155. kadzuko muN-tu junu kutsu hanako-ne:-N ho:ti ta:ha.
(和子の ものと 同じ 靴を 花子にも 買って やろう。)

ならべ

156. kadzuko-tu hanako-ja du:ido:.
(和子と 花子は 友達だ。)

15. jo:ka 格

157. teNpura-jo:ka-N sacimi-du masa:ru.
(天ぷらよりも さしみ(が) おいしい。)
158. ta:-jo:ka pudzibe:haN.
誰より 成長が早い。
159. su:-jo:ka-N hado:hataN.
(今日よりも 風が強かった。)
160. jakuba-Nkai-ja taku:ci:-ei ?iku:ci-jo:ka-N basu-ei ?iku:ci-ru maci jaru.
(役場には タクシーで 行くよりも バスで 行くのが いい。)

16. ja のとりたて

奥方言のとりたて助詞 ja は、現代日本語の「は」と同じく、同類のものごととの《対比》と《主題》を表す。ヤの前にくるものごとがとりたてられ、同類のものごととの違いが対比される。

161. hanako-ja teja-nu ?aNma:-Nkai hikatu nito:N.
(花子は 顔が 母に よく 似ている。)
162. taro:-ja mi:-nu su:ta:-Nkai hikatu nito:N.
(太郎は 眼が 父に よく 似ている。)
163. taro:-ja mi:-nu su:ta:-ne: dziko: nito:N.
(太郎は 眼が 父に よく 似ている。)
164. hanako-ja kadzuko-tu naha ?itahaN.
(花子は かず子と 仲(が) よい。)
165. ?uttu-ja hudu: teu:ga-nu seNse: nataN.
(妹は 去年 中学の 先生(に) なった。)

166. papp'a:-ja nibaNdza-ne: terebi mi:takuNdo:.
(祖母は 二番座で テレビを 見ているよ。)
167. ?aNma:-ja mattea-Nkai ho:rimuN si:ga ?ida:N.
(母は 町に 買い物を しに 行った。)
168. taro:-ja ?eigo-nu hoN jumibu:suN.
(太郎は 英語の 本が 読める。)
169. dziro:-ja habi-ei: koinobori hikute:N.
(次郎は 紙で 鯉のぼりを 作ってある。)
170. dziro:-ja bo:-ei saburo: p'icidaN.
(次郎は 棒で 三郎を たたいた。)
171. dziro:-ja ?uNme:-kara ?abija: suNna-dzitei ?abijajaN.
(次郎は 祖父から 喋るなって 叱られた。)
172. dziro:-ja ?uNme:-ne: ?abiNnadzitei nurata:N.
(次郎は 祖父に 喋るなって 叱られた。)
173. hanako:-ja kinu:-hara jaNme:-ei nitto:N.
(花子は 昨日から 病気で 寝ている。)
174. hanako:-ja ?aNma:-ne:ti munu kamahattaN
(花子は 母に ご飯を 食べさせられた。) **食べさせてもらったの訳**
175. parito:ru p'i:-ja saburo:-ja ?umi:-dzi ?iru kwa:suN.
(晴れた 日は 三郎は 海で 魚を 釣る。)
176. parito:ru p'i:-ja saburo:-ja ?umi:-dzi ?iru-beN-du kwa:suru.
(晴れた 日は 三郎は 海で 魚ばかりを 釣る。)
177. dziro:-ja uttu-nu saburo:-tu ?o:taN.
(次郎は 弟の 三郎と 喧嘩した。)
178. dziro:-ja gaNmaru-ei: ?uNme:-ne: nura:taN.
(次郎は いたずらして 祖父に 叱られた。)
179. dziro:-ja ?uNme:-hara ?abiNna dzit_{ei} nura:taN.
(次郎は 祖父から 喋るなって 叱られた。)
180. dziro:-ja ?ami-ne: ?iNdziti ja:-Nkai ke:titto:N.
(次郎は 雨に 濡れて 家に 帰ってきている。)
181. hanako:-ja mukaci-hara saN_{ei}N pikibu:saN.
(花子は 昔から 三線が 弾ける。)
182. kadzuko-tu hanako-ja ducido:.
(和子と 花子は 友達だ。)
183. ?uNme:-ja hitumiti-hara jama-Nkai mimigui tuiga ?idaN.
(祖父は 朝から 山に キノコを 取りに 行った。)
184. waN:-ja kinu:-ja eiNbuN jumaNtaN.
(俺は 昨日は 新聞を 読まなかった。)

185. wanu-ja ja:tei kwa:taN.
(おれは 八匹 釣った。)
186. einugu-nu ba:-ja papp'a:-ga:deN udutaN.
(シヌグの ときは 祖母まで 踊った。)
187. parito:ru p'i:-ja saburo:-ja ?umi:-dzi ?iru-beN-du kwa:suru.
(晴れた 日は 三郎は 海で 魚ばかりを 釣る。)
188. parito:ru p'i:-ja saburo:-ja ?umi:-dzi ?iru kwa:suN.
(晴れた 日は 三郎は 海で 魚を 釣る。)
189. ?ami-nu puiru p'i:-ja saburo:-ja ja:-ne: naNga-beN-du juda:kuru.
(雨の 降る 日は 三郎は 家で 漫画ばかり 読んでいる。)
190. juru mitei ?akkuru ba:-ja pabu-ne: ki: hikirijo:.
(夜 道を 歩く ときは ハブに 気を つけろよ。)
191. ?uimi-nu posuta:-ja ko:miNkwaN-nu paci:-ne: pate:taNdo:.
(祭りの ポスターは 公民館の 戸に 貼ってあったよ。)
192. ?uimi-nu posuta:-ja ko:miNkwaN-nu hubi-ne: pate:taNdo:.
(祭りの ポスターは 公民館の 壁に 貼ってあったよ。)
193. na:: kamari:ei-ja miNna kadaN.
(もう 食べられるのは みんな 食べた。)
194. dziro:-ja uttu-nu saburo:-tu ?o:taN.
(次郎は 弟の 三郎と 喧嘩した。)
195. sato:-ja ?amahaN. kusui-ja ?amaku neN.
(砂糖は 甘い。 薬は 甘く ない)
196. huN eiNbuN-ja kinu:-nu daru. su:N muN-ja huri daru.
(その 新聞は 昨日のだ。今日の ものは これだ。)
197. waN-ja kinu:-ja eiNbuN jumaNtaN.
(俺は 昨日は 新聞を 読まなかった。)

ヤは、格助詞のさらに後ろに付いて、とりたてる。

198. abunahatu mitei-nu suba-hara-ja ?akkuna.
(危ないから 道の 側は 歩くな。)
199. mitei-nu maNnaha-hara ?attei-ja naraNdo:
(道の 真ん中を 歩いては いけないよ。)
200. jakuba-Nkai-ja takuci:-ei ?ikuci-jo:kaN basu-ei ?ikuci-ru maci jaru.
(役場には タクシーで 行くより バスで 行くのが いい。)

17. Nのとりたて

奥方言の N のとりたての形がとりたてられたものごとと同類のものごとが他にもあることを表す《累加》の意味を有する例が確認できた。那覇方言などでは《累加》の他に《極

端》、《ぼかし》を表すことも可能であるので、奥方言も同様に存在すると考えられるが、確認できていない。

201. wasa: ʔodzi:-ja saki-N tabaku-N numaNdo:.

(うちの 祖父は 酒も 煙草も のまないよ。)

202. ʔaNma:-N kadze hita:N.

(母も 風邪を ひいた。)

203. kadzuko muN-tu junu kutsu hanako-ne:-N ho:ti ta:ha.

(和子の ものと 同じ 靴を 花子にも 買って やろう。)

18. du のとりたて

奥方言のとりたて助詞の **du** は、現代日本語の「こそ」と同じく、前にあるものごとを特に目立たせて示す特立を表す。**du** のとりたての形は、現代日本語の「こそ」に比べて制限が少なく、いろいろなタイプの文に現れるが、疑問詞疑問文と命令文には現れないようである。

204. ʔami-nu pui ru p'i:-ja saburo:-ja ja:ne: naNga-beN-du juda:kuru.

(雨の 降る 日は 三郎は 家で 漫画ばかりを 読んでいる。)

205. parito:ru p'i:-ja saburo:-ja ʔumi:-dzi ʔiru-beN-du kwa:suru.

(晴れた 日は 三郎は 海で 魚ばかりを 釣る。)

206. waN-ja irabutea:-nu namaɕi-du kamibusa:N

(俺は イラブチャーの 刺身が 食いたい。)

207. teNpura-jo:kaN saeimi-du masa:ru.

(天ぷらより さしみ(が) おいしい。)

208. ura-ja teNpura-du maeina:. saeimi-du maeina:.

(君は 天ぷらが いいか。 刺身が いいか。)

209. jakuba-Nkai huma-nu mitɕi-hara ʔikuei-du maɕido.

(役場に ここを 行くのが いいよ。)

210. basu-ja p'i:-ni mine:-du ʔaiN-do:.

(バスは 一日に 三回 ある。)
「三回しかない」の質問への回答

211. saki-ja humi-hara-du hikuiru.

(酒は 米から 作るんだ。)

212. jakuba-Nkai huma-hara ʔikuei-du maɕido:

(役場に ここを 行くのが いいよ。)

213. jakuba-Nkai huma-nu mitɕi-hara ʔikuei-du maɕido:

(役場に ここの 道を 行くのが いいよ。)

214. teNpura-du u maeina:. saeimi-du maeina:. dziru-ga maɕijaNga

(天ぷらが いいか。 刺身が いいか。どれが いいの。)

19. beN のとりたて

奥方言のとりたて助詞の beN は、名詞に付いて同類のものごとを排し、前にあるものごとを限定してとりたてる。

215. huN panaɕi-ja ʔuttu-ni-beN panaɕi saN.

(その 話は 妹にだけ 話 した。)

216. parito:ru p'i:-ja saburo:-ja ʔumi:-dzi ʔiru-beN-du kwa:suru.

(晴れた 日は 三郎は 海で 魚ばかりを 釣る。)

217. ʔami-nu pui ru p'i:-ja saburo:-ja ja:-ne: naNga-beN-du juda:kuru.

(雨の 降る 日は 三郎は 家で 漫画ばかりを 読んでいる。)

20. eba のとりたて

奥方言の eba は、名詞述語を構成する繋詞の条件形で、名詞の格形式と組み合わせ、主題を差し出す。聞き手がそれについて質問し、それについて答えるとき、主題にして差し出しながら情報を述べる。

218. pidu-Nkai eba ʔunu mitɕi-hara ʔikuɕi maɕija:

(辺戸に なら この 道を 行くのが いいね。)

21. ga:deN のとりたて

奥方言のとりたて助詞の ga:deN は、想定された基準を尺度にして、前にあるものごとがその想定外であったこと示す。ga:deN は、到達点を表す格助詞 ga:deN と同音であり、意味的にも形式的にも現代日本語の「まで」に対応している。

219. ɕinugu-nu ba:-ja papp'a:-ga:deN udutaN.

(シヌグの ときは 祖母までも 踊った。)

大きな だいこん (かぶ)

ウプデークニ

ʔup'ude:k'uni

- 1 おじいさんが、かぶの たねを まきました。

ウンメーガ デークニ サニ マタン

ʔuNme:ga de:k'uni sani mat'aN.

- 2 「あまい あまい かぶに なれ。

「アマハール アマハール デークニンカイ ナリドー

「ʔamaha:ru ʔamaha:ru de:k'uniNkai narido:

- 3 おおきな おおきな かぶに なれ。」

ウプハール ウプハール デークニンカイ ナリドー」

ʔup'uha:ru ʔup'uha:ru de:k'uniNkai narido:」

- 4 あまい めずらしい、(げんきの よい、)

アマハール ミジヤーハール

ʔamaha:ru miɕija:ha:ru

- 5 とてつもなく おおきい かぶが できました。

ジコー ウプハール デークニヌ ジキトーン/イットーン

ɕik'o: ʔupuha:ru de:k'uninu ɕik'ito:N/ʔitt'o:N.

- 6 おじいさんは、 かぶを ぬこうと しました。

ウンメーガ デークニ ピクンジ サン

ʔuNme:ga de:k'uni p□ik'uNɕi saN.

- 7 「うんとしょ、 どっこいしょ。」

エイヤ サッサ

ʔeija sassa

- 8 ところが、 かぶは ひけなかった/ひけない(ぬけません)。

ヤシガ デークニヤ ピカランタン/ピカラン

jaʃiga de:k'unija p□ik'araNt'aN/p□ik'araN.

- 9 おじいさんは、おばあさんを よんできました。

ウンメーヤ パッパー ユジッタン

ʔuNme:ja p'app'a: juɕitt'aN.

- 10 おばあさんが おじいさんを ひっぱって、

パッパーガ ウンメー ピッパティ

p'app'a:ga ʔuNme: p'ipp'at'i

- 11 おじいさんが かぶを ひっぱって。

ウンメーガ デークニ ピッパティ

ʔuNme:ga de:k'uni p'ipp'at'i

- 12 「うんとしょ、 どっこいしょ。」

エイヤ サッサ

ʔeija sassa

- 13 それでも、 かぶは ぬけません。

ヤシガ デークニ ピカランタン

jaʃiga de:k'unija p'ik'araNt'aN.

- 14 おばあさんは まごを よんできました。

パッパーヤ マガ ユジッタン

p'app'a:ja ʔmaga juʒitt'aN.

- 15 まごが おばあさんを ひっぱって、

マガガ パッパー ピッパティ

ʔmagaga p'app'a: p'ipp'at'i

- 16 おばあさんが おじいさんを ひっぱって、

パッパーガ ウンメー ピッパティ

p'app'aga ʔuNme: p'ipp'at'i

- 17 おじいさんが かぶを ひっぱって。

ウンメーガ デークニ ピッパティ

ʔuNme:ga de:k'uni p'ipp'at'i

- 18 「うんとしょ、 どっこいしょ。」

エイヤ サッサ

ʔeija sassa

- 19 まだまだ、 かぶは ぬけません。

ナマ デークニヤ ピカラン

ʔnama de:k'unija p'ik'araN.

- 20 まごは、 イヌを よんできました。

マガヤ インヌクワ ユジッタン。

ʔmagaja ʔiNnuk'wa juɕitt'aN.

- 21 イヌが まごを ひっぱって、

インヌクワヌ マガ ピッパティ

ʔiNnuk'wanu ʔmaga p'ipp'at'i

- 22 まごが おばあさんを ひっぱって、

マガガ パッパー ピッパティ

ʔmagaga p'app'a: p'ipp'at'i

- 23 おばあさんが おじいさんを ひっぱって、

パッパーガ ウンメー ピッパティ

p'app'a:ga ʔuNme: p'ipp'at'i

- 24 おじいさんが かぶを ひっぱって。

ウンメーガ デークニ ピッパティ

ʔuNme:ga de:k'uni p'ipp'at'i

- 25 「うんとしょ、 どっこいしょ。」

エイヤ サッサ

ʔeija sassa

- 26 まだまだ、 まだまだ、 めげません。

ナマン ナマン ピカラン

namaN namaN p'ik'araN.

- 27 イヌは、 ネコを よんできました。

インヌクワヤ マーウタ ユジッタン

ʔiNnuk'waja ma:ut'a juɟitt'aN.

- 28 ネコが イヌを ひっぱって、

マーウタヌ インヌクワ ピッパティ

ma:ut'anu ʔiNnuk'wa p'ipp'at'i

- 29 イヌが まごを ひっぱって、

インヌクワヌ マガ ピッパティ

ʔiNnuk'wa ʔmaga p'ipp'at'i

- 30 まごが おばあさんを ひっぱって、

マガガ パッパー ピッパティ

ʔmagaga p'app'a: p'ipp'at'i

- 31 おばあさんが おじいさんを ひっぱって、

パッパーガ ウンメー ピッパティ

p'app'a:ga ʔuNme: p'ipp'at'i

- 32 おじいさんが かぶを ひっぱって。

ウンメーガ デークニ ピッパティ

ʔuNme:ga de:k'uni p'ipp'at'i

- 33 「うんとこしょ、どっこいしょ。」

エイヤ サッサ

ʔeija sassa

- 35 それでも、かぶは ぬけません。

アンシン デークニヤ ピカラン

ʔaNʃiN de:k'unija p'ik'araN.

- 36 ネコは ネズミを よんできました。

マーウタヤ ウェンス ユジッタン

ma:ut'aja ʔweNsu juʤitt'aN.

- 37 ネズミが ネコを ひっぱって、

ウェンスヌ マーウタ ピッパティ

ʔweNsunu ma:ut'a p'ipp'at'i

- 38 ネコが イヌを ひっぱって、

マーウタヌ インヌクァ ピッパティ

ma:ut'anu ʔiNnuk'wa p'ipp'at'i

- 39 イヌが まごを ひっぱって、

インヌクワヌ マガ ピッパティ

ʔiNnuk'wanu ʔmaga p'ipp'at'i

- 40 まごが おばあさんを ひっぱって、

マガガ パッパー ピッパティ

ʔmagaga p'app'a: p'ipp'at'i

- 41 おばあさんが おじいさんを ひっぱって、

パッパーガ ウンメー ピッパティ

p'app'a:ga ?uNme: p'ipp'at'i

- 42 おじいさんが かぶを ひっぱって。

ウンメーガ デークニ ピッパティ

?uNme:ga de:k'uni p'ipp'at'i

- 43 「うんとこしょ、どっこいしょ。」

エイヤ サッサ

?eija sassa

- 44 やっと かぶは ぬけました。

トーナティ デークニヤ ピカタン

t'o:nat'i de:k'unija p'ik'at'aN.